

大阪府立大学第23回留学生日本語弁論大会報告書

URL

<http://hdl.handle.net/10466/00016573>

大阪府立大学

第 23 回留学生日本語弁論大会

報告書

平成 28 年 11 月 6 日(日)
大阪府立大学



大阪府立大学国際交流推進機構

大阪府立大学留学生後援会

目 次

第 23 回 留学生日本語弁論大会報告書に寄せて	1
第 23 回 留学生日本語弁論大会実施要領	2
卒業生講演	3
当日のプログラム	4
第 23 回 留学生日本語弁論大会弁論要旨	
金賞 「人生の色」 PERVIN MUNMUN	5
銀賞 「日本のお坊さんとチベットのお坊さん」 WANMADUOJIE	6
銅賞 「美しい日本の私」 SONG DENG PENG	7
審査員特別賞「生卵、白ご飯と味噌汁」 PHAN QUYNH UYEN	8
奨励賞「日本式の熱血青春」 XU XIAOXING	9
奨励賞「日本の映画の人物との出会い」 LAM HOANG KIET	10
奨励賞「初めて来た外国日本」 PHAM KIM OANH	11
奨励賞「固定観念からお互いを理解出来る」 LEDOUX CLAIRE	12
奨励賞「私の日本での生活と私の考え」 LEE HEEHO	13
奨励賞「日本に来て分かったこと」 CHEN PIN CHUN	14
第 23 回留学生日本語弁論大会寄付者名簿	15

大阪府立大学第 23 回留学生日本語弁論大会 報告書に寄せて

大阪府立大学国際交流推進機構と大阪府立大学留学生後援会の主催する第 23 回留学生日本語弁論大会が、本学の学園祭「白鷺祭」の一環として平成 28 年 11 月 6 日に国際交流会館「I-wing なかもず」で開催されました。この留学生弁論大会は、大阪府直営時代の旧大阪府立大学から続く恒例のイベントですが、今回は第一部として留学生へのキャリアサポートも考慮して「卒業生講演」が行われました。第二部の恒例の弁論大会では、中国 3 名、ベトナム 3 名、バングラデシュ、フランス、韓国、台湾各 1 名、合計 10 名の留学生たちが日本語のスピーチを競いました。

卒業生講演では、平成 26 年度に本学大学院人間社会学研究科博士前期課程を修了し、現在は名鉄観光サービス株式会社に勤務している韓小虎さんに、大学生活や就職活動のことなどを話していただきました。韓さんは、就活はタイミングが大切、面接で中国人の視点が認められたようだと言った後輩の留学生たちに語りかけていました。

留学生日本語弁論大会のテーマは「日本人との交流体験」でした。今回の大会でも 10 名の弁士たちが、言語や文化、風俗などが異なる日本で生活する中で見聞きした出来事、出会った人々との交流、体当たりの異文化体験などを日本語で熱く語りました。わずか 5 分間前後のショートトークでしたが、笑いあり、涙ありの留学生たちの熱弁に観客席もおおいに盛り上がりました。私たち日本人として学ぶことも多かったと思います。

今回の金賞は、「人生の色」をテーマにスピーチしたバングラデシュからの留学生、ペルビン・ムンムンさんが獲得しました。赤色を基調とした鮮やかなサリーを身にまとったムンムンさんは、人生は色に似ている、人種とは関係ないみたいだけど、バングラデシュでは花嫁衣装は赤色ですと大きなジェスチャーを交えて巧みな日本語で熱演し、会場を沸かせました。銀賞は「日本のお坊さんとチベットのお坊さん」について話したワンマドルジェさん、銅賞は「美しい日本の私」をテーマにスピーチしたソウ・トウホウさんと、いずれも中国からの留学生が獲得しました。今回はこの 3 名以外に、「生卵、白ご飯と味噌汁」のテーマで会場を盛り上げたベトナムからの留学生、ファン・クインウィンさんに審査員特別賞が授与されました。各留学生弁士の発表内容は、この報告書にまとめていますのでぜひご一読ください。

今回の大会も、堺市内ロータリークラブ、国際ソロプチミスト堺、堺市、国際交流クラブ KoKoC ならびに現役・OB・OG の先生方等、多くの方々のご支援で実現しました。厚く御礼申し上げます。また、今回の大会の企画と司会を務めた国際交流サークルオリオンおよび大阪府立大学留学生総会、審査員をお引き受けいただいた堺清陵ロータリークラブの梅香路正会長、国際ソロプチミスト堺の小林美佐子会長、堺市国際課の多田裕美課長補佐に深く感謝申し上げます。最後になりましたが、今回熱弁をふるった留学生のご家族や友人、指導教員、日頃、本学の留学生をご支援いただいております多くの方々に対して、心より御礼申し上げます。

大阪府立大学国際交流推進機構長
大阪府立大学留学生後援会 会長
石 井 実

大阪府立大学 第23回留学生日本語弁論大会 実施要領

1. 目的 大阪府立大学の大学祭（白鷺祭）イベントの一環として位置づけ、留学生の日本語学習を奨励するとともに、広く留学生と日本人相互の国際理解と交流を深める。
2. 日時 平成28年11月6日（日）
第一部：13:30～14:15 卒業生講演 講師：本学卒業生 韓 小虎氏
第二部：14:15～16:30 弁論大会
交流会：16:30～17:30
3. 場所 大阪府立大学中百舌鳥キャンパス
国際交流会館 I-wing なかもず（B17棟） 1階グローバルコモンズ
4. 概要
 - (1) テーマ 「日本人との交流経験」
 - (2) 弁論者数 10名
 - (3) 弁論時間 各5分
 - (4) 審査員
堺市国際課 課長補佐 多田 裕美
堺清陵ロータリークラブ会長 梅香路 正
国際ソロプチミスト堺 小林 美佐子
大阪府立大学 留学生後援会会長 石井 実
大阪府立大学 国際交流推進機構副機構長 山手 丈至
大阪府立大学留学生後援会理事 寺迫 正廣
 - (5) 賞
金 賞（1名） トロフィー・副賞
銀 賞（1名） トロフィー・副賞
銅 賞（1名） トロフィー・副賞
審査員特別賞（1名） 盾・副賞
奨励賞（6名） 盾・副賞
5. 主催 大阪府立大学国際交流推進機構/大阪府立大学留学生後援会
後援 堺市/堺市内ロータリークラブ/国際ソロプチミスト堺
協力 大阪府立大学留学生総会/国際交流サークルオリオン

卒業生講演



講師：韓 小虎（HAN XIAOHU）氏

名鉄観光サービス株式会社梅田支店勤務

大阪府立大学人間社会学研究科博士前期課程修了

平成 26 年度大阪府立大学留学生後援会奨学生

留学生日本語弁論大会に先立ち、第一部の卒業生講演では、本学の人間社会学研究科博士前期課程を修了し、現在は日本で社会人生活を送っている韓小虎さんに講演をしていただきました。後輩である本学留学生に向け、学生時代にどのようなことに取り組んだか、日本での就職活動に向けてどのような準備が必要か、日本語はどのくらいできるようになるべきか、などについて様々なアドバイスが送られ、フロアの学生からは次々と質問が寄せられました。現在の仕事に懸命に取り組む先輩の姿に留学生たちは大いに刺激を受けていました。

日本語弁論大会出場者の記念撮影



第23回 留学生日本語弁論大会 出場者の紹介

日本語弁論大会出場者紹介 Speakers


①～⑩は、弁論の順番

司会：大阪府立大学国際交流サークルオリオン
MC：OPU International Exchange Circle "Orion"

ジョー ギョウセイ

1 XU XIAOXING
(中国出身)

大阪府立大学 工学域
College of Engineering, OPU




「日本式の熱血青春」

ワンマドルジェ

2 WANMADUOJIE
(中国出身)

大阪府立大学 現代システム科学域
交換留学生
Exchange student, College of Sustainable System Sciences, OPU




「日本のお坊さんとチベットのお坊さん」

ラム ホアン キエット

3 LAM HOANG KIET
(ベトナム出身)

大阪府立大学 現代システム科学域
College of Sustainable System Sciences, OPU



「日本の映画の人物との出会い」

ペルビン ムンムン

4 PERVIN MUNMUN
(バングラデシュ出身)

大阪府立大学 生命環境科学研究科
(獣医学専攻) 博士課程
Graduate School of Life and Environmental Sciences, Doctor's course, OPU




「人生の色」

ファン クィンウィン

5 PHAN QUYNH UYEN
(ベトナム出身)

大阪府立大学 現代システム科学域
College of Sustainable System Sciences, OPU




「生卵、白ご飯と味噌汁」

ファン キムオアン

6 PHAM KIM OANH
(ベトナム出身)

大阪府立大学 工学研究科 博士前期課程
Graduate School of Engineering, Master's Course, OPU



「初めて来た外国日本」

ルドゥ クレール

7 LEDOUX CLAIRE
(フランス出身)

大阪府立大学人間社会システム科学研究科
交換留学生
Exchange Student, Graduate School of Humanities and Sustainable System Sciences, OPU



「固定観念からお互いが理解出来る」

イ フィホ

8 LEE HEEHO
(韓国出身)

大阪府立大学 工学域
交換留学生
Exchange Student, College of Engineering, OPU



「私の日本での生活と私の考え」

ソウ トウホウ

9 SONG DENG PENG
(中国出身)

大阪府立大学人間社会システム科学研究科
交換留学生
Exchange Student, Graduate School of Humanities and Sustainable System Sciences, OPU



「美しい日本の私」

チェン ピンチュン

10 CHEN PIN CHUN
(台湾出身)

大阪府立大学 人間社会システム科学研究科
研究生
Research Student, Graduate School of Humanities and Sustainable System Sciences, OPU



「日本に来て分かったこと」

協力：大阪府立大学留学生総会
Cooperated by: OPU International Students Association

16:30～17:30 交流会

約100名の観客を得て大いに盛り上がりました。大会終了後国際交流会館ロビーにて交流会を行いました。

<金賞> 人生の色

生命環境科学研究科獣医学専攻博士課程3年
ペルビン ムンムン
PERVIN MUNMUN (バングラデシュ)



みなさん、こんにちは！ ムンムンペルビンと申します。バングラデシュから来ました。バングラデシュは南アジアにある美しいカラフルな国です。今日は色について話したいと思います。しかし、私は画家ではありません。今、大阪府立大学で獣医病理学の博士課程です。

私の考えでは、色と生活は似ています。私たちの周りを見ると、たくさん色があります。そして、私たちの日々の生活にもたくさんイベントがあります。幸せな時、悲しい時、成功と失敗、誕生と死。私たちは幸せを感じる時、すべてのものは明るくてカラフルで綺麗に見える気がします。逆に、悲しい時は、暗くて灰色に見える気がします。このように、人は楽しい時やうれしい時は明るい服を選びます。たとえばバングラデシュでは、結婚式の時、新郎新婦は赤い服を着ます。また、他の人たちはカラフルな服を選びます。お正月の時には赤と白の服を、そして春の時は花のように綺麗な服を着ます。National dayには国旗のように赤と緑の服に身を包みます。反対に、悲しいイベントの時、人々は黒や、灰色などの暗い色の服を着ます。例えば、人が亡くなった時は黒い服を選びます。

私は日本に来たとき、私の服はカラフル過ぎると思いました。日本の方は、明るくてマイルドな色の服を着ます。大学、スーパー、どこに行っても私は一番カラフルでした。みんなが私を見ていると思い本当に恥ずかしくて隠れたかったです。でも、日本人の友達とラボの人々は私のカラフルスタイルのことをとても感心しました。その時、彼らも色が好きなことに気づきました。バングラデシュ人と同様に、日本人の生活では色はとても大事です。例えば卒業式の時や、祭りの時、綺麗でカラフルな着物を着ます。それにより、日本人の幸せな気持ちがわかります。

ところで、悲しい時や失敗した時は落ち込んで生きていけない気持ちになります。自分で世界の終りのような気がします。でも、それは正しくないです。太陽はずっと雲の後ろに隠れることはないです。そして激しい雨が終わってから綺麗な虹が待っています。なので、ずっと希望をなくさないで人生の虹を探すことが大事です。皆さんの人生はカラフルだと願っています。そうすれば世界ももっともっと輝くでしょう。

最後に私の一番幸せな時について、みなさんに話したいです。子供を授かった時がその時です。とても幸せで周りは全部虹の色がしました。そして病院に行った時、たくさんの妊婦さんと出会う事が出来ました。日本人や、中国人、ベトナム人、インドネシア人、いろいろな国の方がいました。彼女たちの顔に虹が見えました。私のように、幸せを感じていました。それで大切な事を学びました。生まれた所、肌の色、宗教は関係がありません。人生の大切なすべては人間性です。多様の中に統一を探さないといけません。そして、世界は美しく平和になります。つまり、喧嘩と戦争がなく、幸せで輝く世界です。次世代のためにこの世界を作らないといけません。

これで私の発表は以上です。ご清聴ありがとうございました。

<銀賞> 日本のお坊さんとチベットのお坊さん

現代システム科学域 交換留学生
ワンマドルジェ
WANMADUOJIE (中国)



今日、チベットのお坊さんと日本のお坊さんというテーマについて話したいと思います。よろしくお願いたします。

皆さん、チベットと言うとどんなイメージがありますか。ヒマラヤとか、仏教とか、お寺とかでしょう。皆さんは思った通り、チベットは本当に標高が高いところです。私の故郷は3500メートルで、富士山と同じでした。言い換えると、私は小さいから富士山の上に放牧してきた人でした。

ダライ・ラマという人をご存じですか。チベットはダライ・ラマさんの故郷で、チベットは昔から大変仏教が盛んなところですよ。日本はチベットよりも昔に、仏教が中国から朝鮮半島を経て伝わったとされていることを知りました。ですから、日本仏教にも興味が深くなりました。

今年の4月、私は初めて日本にきた時、ちょうど日本の花見時でした。チベットの花は宗教に関係して、仏様が座っていらしゃるハスの花です、日本人にとって「国花」国の花とも言える桜の美しさを見たかったし、特にあつという間に咲いて、あつという間に散ってしまう桜に諸行無常の仏教の影響と結び付いていると思うからです。

桜を見るため、私は清水寺に行きました。桜が取り囲む本堂が眺められる奥の院からの景色や、清水の舞台から見下ろす桜は実に絶景でした。そこで初めて日本のお坊さんを見ました。私は仏教を信じている人ですから、袈裟を着ている人を見ると、親しみを感じます。しかし、私にとって、日本仏教のことで、とても驚くことがありました。皆さん、何だと思いませんか？それは日本のお坊さんが結婚してもいいということでした。お坊さんが結婚できる・・・・・・ チベットにとっては、非常におかしいことと思います。チベットでのお坊さんは結婚してはいけません。女の人とそんな関係があったら、お坊さんになれないんです。

仏教界全体で見ると、日本の仏教の姿は特別です。けれども。それで日本仏教の何かが間違っていたというわけではありません。これは日本の歴史と習慣と関係があると聞いて、資料を探してみました。親鸞のもとから世襲によるお寺の継承と、江戸時代に確立した檀家制度によって、今の日本仏教の姿が強固になったそうですが、今の若い人たちはあまり仏教について知らない人が多いと聞きました。

実は私はチベットへ帰ったら、お坊さんになるつもりです。ということは、一生結婚しない・・・・・・それは冗談です。

私のスピーチは以上です。

ご静聴ありがとうございました。

བཀའ་རྒྱུ་ལྟོ

<銅賞> 美しい日本の私

人間社会システム科学研究科 交換留学生
ソウ トウホウ
SONG DENG PENG (中国)



2016年3月30日、すでに桜が満開となっている季節でした。私は飛行機で関西空港に着き、初めて日本の土地に足を踏み入れました。一人で異国の土地を踏む不安というより、むしろ期待のほうが大きかったのです。重いスーツケースを持っているというものの、気持ちは軽かったです。煩わしい入国の手続きでしたが、審査官の説明で、人生初の日本人のやさしさを実感しました。手続きが終わった後、緊張したままの気持ちで、ようやく大学行きの電車に乗りました。

一回乗り換えて、いよいよ大学付近の駅に到達しました。駅から出て、静かな町、きれいな地面、すがすがしい空気といった風景は目に触れただけでなく、全身の器官で感じ取りました。私は方向音痴で、地図があっても学校の場所もさっぱりわかりませんでした。勇気を奮い起こして、小さい声で通行人に「すみません、府大はどこですか」と聞いてみしました。「あそこです！」と笑顔で答えてくれました。私は指さした方向を見て、目の前に建物を発見しました。立派な大学キャンパスでした。学校の門をくぐり、桜が咲き乱れる光景を今度は間近で見ました。それは日本の国花でした。自然と調和している国というのが日本での第一印象でした。

4月になると、学校の生活ははじまりました。指導教授の山崎先生を訪問し、研究室でわずか4人と一緒にゼミの形式で授業を受けることを知ってびっくりしました。中国で前代未聞の形で授業を受けることに対して、緊張しながら期待しています。教壇がなくて先生も学生も平等に研究についてのことを検討して進んでいくのです。きれいな標準語をしゃべっている先生方は父親のように親切で自分の知識をみんなに伝えて、在席の学生は敬意をこめた目で先生をじっと見えています。さすが先進国の教育システムだと思いました。

日本近代文学の研究を進めながら、「留学生ための日本語教室」も毎週2回受けています。先生方はほとんど退職した年配者で、ボランティアとして無料で「日本語教室」を支えています。私は国内では既に4年間の日本語を勉強しましたが、日本語の深さもよく知っているつもりです。けれど、日本でもっと日本語を勉強し、正しい日本語を使って、きれいな日本語をしゃべることはこのうえない経験だと思っています。「日本語教室」の先生方のおかげで、日本語はだんだん上達してただけではなく、先生たちと強い絆を築きました。うれしいことも悲しいことも先生たちに話すことができたのは、異国の外国人にとってどんなプレゼントより心は貴重です。美しいのは日本の桜だけでなく、この社会を支えている日本人の心もそうだったと思えるのです。一年一度だけ咲く爛漫の桜と違って、無言で献身している先生たちは一年中その美しさで輝いていると思うのです。

11月になると、紅葉狩りの季節です。春の桜と同じように、秋の紅葉も日本の美しさの要素です。日本の風景を味わいながら、絶対に日本人の美しさを見逃さないようにしようと思っています。

私は日本で半年を過ごして、初来日の美しい環境から美しい日本人に惹きつけられたという心境が変わってきています。まだ長い道ですので、日本及び日本人への知識や感性をもっと豊かに学びたいと思っています。卒業して帰国した後、本当の日本をできるだけ多くの中国の若い世代に伝えたいと考えています。私も先生たちの親切な指導の元で、来年の4月から日本での新しいページを行進し、研究分野でも一生懸命努めたいと思っています。

<審査員特別賞> 生卵、白ご飯と味噌汁



現代システム科学域2年
ファン クィンウィン
PHAN QUYNH UYEN (ベトナム)

皆さん、こんにちは。

こんな時間でしたら、多分誰でもお昼ご飯を食べたのですね。しかし私は、食べませんでした。なぜかと言うと、今朝は、生卵、白ご飯と味噌汁を この順番で食べました。それぞれ、とても新鮮で美味しいものでしたが、まだ何も食べていない朝に、最初に生卵だけを食べたのはミスしたような気がします。生卵を熱い白ご飯に乗せて、卵かけ御飯にして食べて味噌汁を飲んだら多分最高な朝食だったはずです。なぜ今朝のような順番で食べてしまったのか、よく覚えていません。ずっと気持ちが悪くて、昼ご飯を食べられませんでした。「あー、ミスった」と思いながら、やはり順番は大事だと気づいてきました。うん。大事ですね、順番は！

わずかにいる特別な人を除いたら私たちのような凡人は生まれてから死ぬまでにぶつかる物事も出会う人の人格もだいたい同じだと思います。誰の人生においても、喜怒哀楽のすべてを経験するのではないのでしょうか。出会う人々の中に、優しい人がいれば、ひどい人もいるはずですよ。なんでも上手く行く日があれば、失敗ばかりで何もできない日もあります。つまり基本的に人それぞれの人生に起きることは似ています。それなのに、幸せな人と不幸な人、どちらもいるのはなぜでしょう？理由は順番です。例として私の話を語ります。

私は今まで自分が幸せな人生を送っていると言えます。来日してからの留学生活も幸せです。日本に来た頃は、日本語があまりわからなかったため、半泣き半笑いするようなことばかりでした。バイト先で、ある先輩に伝票がいっぱい入っているレジ袋を渡されて「捨てちゃあかんで」と言われたら、在日時間まだ数ヶ月で大阪弁なんてわからない私は捨てるという単語しか聞き取れなかったのに、わからないまま、確認もせず、ポイと捨ててしまいました。そのようなミスが毎日起こりました。しかし周りの人は責めもせず、いつも優しく教えてくれました。方向音痴で何回も道を尋ねていつも家まで連れて帰ってもらったりもしました。それでいつの間にか日本、というか大阪が大好きになりました。ところが大阪での生活はいい事ばかりではないです。性格の悪い人に出会ったり、大学の授業のグループワークで何もやってくれない無責任な子がいたり、外国人嫌いな人に舐められたりした事がありました。よかった事に、そのような運の悪い事は留学生活に慣れてきて心細い時期を乗り越えた後でした。最初にいい事、そしていい出会いばかりで心励まされて強くなったのでどんなにひどいことにぶつかってもガッカリせず、今の自分は幸せだと思えます。その上積極的に頑張って頑張ります。今までの出来事は私にとっていい順番で起きたので私は幸せでした。

皆さん、過去のことを振替ってみれば、私が言ったことに同感すると思います。ある場所へ来てひどいことに遭ったから後に来たいいいことが見えなくなってあの場所が嫌いになってしまったとかある人がとても良い人かもしれませんがあの人の短所が先に見えてしまい、良くない人だと思ってしまったとか、そのような経験がないですか？時々、留学生の友達に日本が嫌、留学生活が苦しくて全然楽しんでいないなどの声を耳にします。聞いてみるとやはり最初の時期に苦いことばかり経験したからです。

生卵、白ご飯と味噌汁を与えられたらどんな順番にお召し上がりですか？私と違って生卵が好きな方は最初に生卵を食べるのがいいかもしれませんね。同じように、人生にぶつかる物事がどの順番に来たら幸せになるというのも人それぞれ違います。その順番は自分で決められます。自分から先にいいことだけ考えると先にいいことが来てくれると信じています。

私は明日の朝に絶対生卵を先に食べないので明日の昼ごはんは絶対美味しく食べられると思います。

<奨励賞> 日本式の熱血青春



工学城1年
ジョー ギョウセイ
XU XIAOXING (中国)

みなさん、こんにちは。徐曉星と申します。中国から来ました。今大阪府立大学機械系一年生です。

私は去年の四月に日本に来て、京都に住んで、日本語を勉強しました。初めてこの国と会った時、実際はびっくりしました。中国と違って、にぎやかな通りは都心しか持たないで、ほぼ安静なきれいな街です。新幹線や地下鉄でも大きな声で話している人、電話している人さえいません。みんな無表情のまま、本を読んだり、携帯を触ったりして、自分の世界に浸ります。毎日一番聞こえる話は「すみません」でした。そんなに礼儀正しい日本は、冷然で高速な列車みたい、前に進んでいます、人情味がなさそうでした。これはホントの日本ですかってあの時よく考えました。

日本人との交流が始まるに従って、あの問題の答えもだんだん明らかになりました。冷たい日本はただ表面の日本で、実際の日本は血が沸き立ちますが、ちょっと恥ずかしいがりやと思います。

この印象はどうやって変えましたか。これは大学に入ったごろからの話でした。今年四月に、キャンパスの桜が咲いて、私も合格通知書をもって、大学の生活を始めました。アニメでしか見えない部活やサークルも始まりました。部活の選択は恋愛と同じだと思います。好きな人を選んで、いったん付き合ったら、相手を家族として、責任を持たなければならないです。

私も彼氏を探しましたー馬術部です。息子もいますー着付けの馬のピジョットです。あれから、毎日5時半に起きて、装鞍、練習、手入れして、9時か10時に授業に行きます。ときどき昼も飼いをしました。家から馬場までの通りに、大きな畑があります。畑の上、赤い日もこっそり出ます。光が植物の葉に照て、温かい色が差して、すごくきれいでした。あの時、自転車を乗っている私はただ「いやだ、また遅刻するの？」って思いました。馬を育つお金さえ私たち自分で稼ぎました。ほぼ半分の週末は午前4時に起きて、30キロメートル遠い阪神競馬場までみんな一緒アルバイトして、馬のために頑張ります。電車で夜明けを見て、よく一体どうしてこれをするのと考えます。部活は将来の就職に役立ちますか。なさそうです。なんととっても、面接を受ける時、相手は馬を乗れるかって聞かないですし、ロボットを研究するとき、自動馬飼い機も第一選択ではないでしょう。でも、部活で学んだ集団意識や、何の困難と会っても頑張るの精神はとても大切な品性ではないですか。みんなは馬から落ちてでも頑張って立てもう一度乗ります。ルートを間違っても頑張って練習します。35度でも厚い乗馬服のままで頑張って馬場の中に立ちます。先輩たちの姿を見たとき、始めて熱血という言葉を理解しました。

そして、ちょうど二時間前に、白鷺祭で、学校の舞台で友達と一緒にダンスを出演したばかりです。三日間の舞台が終わって、この前の疲れや心配など全部忘れました。練習夜の金木犀のにおいしか覚えられません。暗い光の下できれいなふきしか覚えられません。観客の多少に気にせず、ただ最高のダンスを出したいです。ここで、一人で戦っているのではないとわかりました。努力は必ず報われるとわかりました。

日本に、ドラマの主人公でも、大手会社の新入社員でも、盛夏の甲子園で必死に戦う高校生でも、みんな先輩や友達と同じで熱血な生活を暮しています。

たぶん私が卒業するとき、甲子園で土を持ち帰る少年たちみたいに、府大で思い出と熱血な青春を持ち帰ります。以上発表終わりました、ご清聴ありがとうございました。

<奨励賞> 日本の映画の人物との出会い

現代システム科学域2年
ラム ホアン キエット
LAM HOANG KIET (ベトナム)



多くの人に対して、記念は人との出会いからできました。僕も同じです。けれども、僕の出会いは直接に会うことではなくて、日本の映画の出会いです。その映画は1リットルの涙です。

僕は映画が好きな人ではありません。特にロマンチックな映画です。それは女性向けの映画だと思います。男性なら、冒険でアクションな映画です。それが、友達が願うまで薦めました。「1リットルの涙を見て、絶対がっかりしないよ」と言われました。来日してから、その時まで、ほぼ3年間を経りましたが、それは日本の高校生の映画の初めてです。各エピソードを見て、自分の感情が変わりました。まず、日本の高校生の生活を楽しみました。あやちゃんの病気の症状に心配して、あやちゃんが医者さんに「なんで病気が私に選ぶの」を聞くことに悲しかったです。次に、あやちゃんの努力に感動しました。最後は、あやちゃんが「よく生きてね」という伝えたことで、生活の価値を見つけました。

「あなたが生きることができる残りの日をカウントダウンしたら、よく生きることができるはずです」高校の先生が僕に言ってくれました。あやちゃんの場合も同様かもしれません。あやちゃんが言語認知可能が無くなっていた時に、諦めずに努力して日記を書きました。みんなに、特に難病にかかっている人に心を支えました。

僕はいつも、自分がどう生活を過ごしますか、どういう人になりますか、既成モデルに真似しますか、自分が作った新規モデルになりますかと自分に聞きました。けれども、それは大したことはないと分かりました。

この映画から、二つのことを取り出しました。それらは僕の羅針盤になります。一つ目はたとえ自分の状況はどうなっても、なんとか他の人に手伝えることです。二つ目は打ち込むことです。誰も知らない明日ですから、後悔しないようによく生きている今日のために一生懸命頑張ります。来日した時から、それは僕の考え方に一番影響を与える記念でした。

<奨励賞> 初めて来た外国日本

工学研究科博士前期課程2年
ファン キム オアン
PHAM KIM OANH (ベトナム)



皆さん、こんにちは、私はオアンです。みそスープのお椀じゃないですよ。一年半前ベトナムから日本に来ました。

日本の第一印象はとてもきれいで大きいなあと感じました。そして、私は日本で初めてのことをたくさんしました。まず、来た時は少し寒かったですが桜の花を見ました。とてもきれいでした。ホーチミン市は桜がありません。初めて桜を見たとき、桜の木の下でおいしい食べ物を食べて、友達と話して、何も考えないで「ああ、これが花見か」と思いました。

夏、たくさんの方がビールを飲んでますね。私はベトナムのビールが一番好きです。小学生のころから、おばあちゃんいとこ両親弟たちと飲んでいました。ある日、ベトナムの友達に日本酒が甘いと聞きましたがしんじることができませんでした。でも、日本酒を飲んだ時ほんとに甘いと思いました。今、一番好きな飲み物は梅酒です。それで、初めて飲み会でよっぱらったとき、どうやってうちに帰ったか何も覚えていません。本当に危なかったです。一人で住んでいますのでよっぱらいは危ないですね。それからほどほどに飲みます。

冬、雪も始めて見ました。そして、寒い冬に温泉に行きました。温泉が私の一番好きなところです。私の家の近くに銭湯があります。千寿の湯です。最初行ったときはショックでした。誰も何も着ていませんでした。「ええ、なんで、服を着ないの」。私は入ることができませんでした。でも、二回目に行ったと恥ずかしかったけれど入りました。そして、とても好きになりました。中と外に色々お風呂があります。マーサージやサウナもあります。寝ころび湯が一番好きです。お風呂の後にミルクを飲むこともとても好きです。

日本では、初めての一人暮らしです。何でも自分でしなければなりません。例えば、電球を取り替えたり家具の場所をアレンジしたりします。そして、病気にならないように気を付けなければなりません。

あと三年私は日本でいろいろなことを経験したいと思います。ありがとうございました。

<奨励賞> 固定観念からお互いを理解出来る

人間社会システム科学研究科 交換留学生
ルドゥ クレール
LEDOUX CLAIRE (フランス)



皆さん、こんにちは！

簡単な自己紹介をさせていただきます。ルドゥ・クレールと申します。9月に日本に来ました。今回は三回目ですが、留学生としては初めてです。中学生の時からずっと日本に興味を持っていましたが、フランスに住んでいる私は、漫画やドラマなどでしか日本での生活を想像できませんでした。日本の文化や日本語をもっと詳しく知りたくて、高校と大学で日本語の勉強を始めました。

日本に着いてからもうすぐ2ヵ月になります。その2ヵ月で、日本人の友達や先生方とお互いの国の話をたくさんしました。その中で、やはりお互いに様々な固定観念があると気づきました。例えば、フランスのマカロンというお菓子の話をしたら、一緒に授業を受けている人達は日常にフランス人がマカロンを食べていると思いました。でも、それはちょっと違います。毎日ではなくて、特別な機会で食べます。他にもこんな話があります。自転車に乗ることについてです。「久しぶりに自転車に乗った」と言ったら、友達は「え？フランスは一番自転車に乗る国じゃないの？」と驚きました。フランスでは自転車に乗る人は、当然いますが、日本より少ないです。日本では自転車は本当に交通手段として扱われていますが、フランスでは自転車に乗るのはほぼ趣味の時だけです。

同じようにヨーロッパ人は日本に対して、固定観念も持っています。例えば、「日本人は外国人があまり好きではない」という固定観念を持っています。どこの国でも外国人が好きではない人もいますが、日本人だったら、言葉が問題だと思います。英語は話せますが、話したら言葉は通じるかどうか不安で、外国人と話すのを避けます。ですから、「日本人は外国人があまり好きではない」というより、「ちゃんと言葉通じるか不安で、外国人が好きではないように見える」が正しいと思います。つまり、自分の国のことを話していると、固定観念が解けて、どんどんお互いの文化や習慣を理解することができます。

日本に着いてから、色々な人に出会えて、色々な人生にかかわって、自分の人生のことも真剣に考え始めました。やはり、将来はこの固定観念を解いてあげられる人になりたいと思っています。他の国の人の文化を理解するようになって、自分の人生をどのように生きたいか考えるのも、私にとっては、大切な留学経験です。

以上です。ありがとうございました。

<奨励賞> 私の日本での生活と私の考え

工学域 交換留学生
イ フィホ
LEE HEEHO (韓国)



まず、多分私がこの発表者の中で一番日本にいる時間が短く、日本語の実力も一番低いと思いますが、下手な日本語で一生懸命に発表したいと思います。よろしくお願いします。

私は4月1日大阪府立大学に来ました。ここで日本語を教えてください先生たちはご存知でしょうが本当に簡単な意思の疎通も難しいほど、日本語がほとんどできない状態でした。そのためにすべてに消極的になって日本人と友達になる機会があっても、できませんでした。さらに、研究室でも同様で、チューターとの話もほとんど不可能な状態でした。だから5月は本当に日本語を一生懸命に勉強しようという考えを持ってその後はある程度意思の疎通ができ始め、特に今は韓国に帰ったシンという年上の人と一緒にあれこれしながら多くの助言を受けており、今になってようやくN2も合格し、簡単な会話くらいはあまり苦労せずにできて日本語授業は問題がなく、専攻授業はまだ難しいですが、ある程度分かるようになりました。

私は日本留学が自分がどうするかによって、大きく変わってくると思います。これに先立ち、意思疎通ができてこそ、日本人の友達と付き合うことができ日本生活を楽しむことができるようにまず日本語実力が一番重要だと思います。日本の免許も取得しましたし、車で福井、白川、高山、岐阜など日本中部のほぼ全域を旅行してみましたし、日本生活を楽しむことができるようになりました。日本語能力の程度によってどのような留学生活になるかが決定できると思っています。

次に申し上げたいことはこの大阪府立大学にありがたい点、望む点について話したいと思います。まず、交換学生を受け入れているという点です。これはあまり重要ではないと思うかもしれませんが、韓国の私の学校の立場でみるとこの大阪府立大学ではうちの学校へ交換学生がないため、原則的にはできないことは分かっています。そして交換学生の延長の件もできたが、皆さんのおかげで、延長可能でもっといろんな思い出を持てるようになりました。だから私としては、この良い機会を作ってくださいありがとうございます。

次に私がまだここに来て8ヶ月しか経っていないんですが、私が留学生生活をしながらこのようなことがもっとこうなったら良くなるのかに対する考えを話します。まず、研究室です。私は一緒に来た友達とは違って私の本来の学科がない他の学科の研究室に配属されました。専攻が全く違うため、研究室にいる理由が率直にないと思います。同じ専攻なら、話す内容も多いし会話ももっとたくさんできて、分からなかったり大変なことがあったら役立つと思いますが、専攻が異なるためこのような点で残念だと思います。もし可能で、該当研究室との条件が合えば行きたい研究室を自分が直接選択するのもいいと思います。二つ目はチューターです。あえて交換学生の国に関心がある人がチューターになったらいいと思います。韓国や他の国の留学生の場合をみれば、チューターと初めて会った時、知らないことや必要なものだけいくつかお互い聞いて後は連絡をしないケースを見ました。このようなケースが起きたらだめだと思います。したがって、例えば、韓国留学生なら韓国語が可能であったり、韓国に関心があるチューターを配分するならば、お互い友達になることもあればはるかに役に立つと思います。三つ目は生活情報です。もちろん、初めて来た時簡単な情報を盛り込んだパンフレットを提供してくれているが、実際はもっと多くの情報が必要です。もちろん、チューターがいるが、チューターも知らない情報がとても多いために大きく役に立たないと思います。したがって、私はお金を支払ってでも日本語、英語だけでなく該当国家となっているここで必要な情報とここで提供している情報だけでなく実際に知って得る情報、アドバイスなどを盛り込んだパンフレットを作ればいいと思います。一例を挙げればクラブのような場合です。いったん交換留学生の場合には、期間も短くて日本語がうまくなければ、サークルの人たちも受けてくれるのが難しいために入るのも大変だと思うが、本人が直接探して求めない以上入るのが難しい現状です。しかし、その前にこの学校にはどんなクラブがあり、どこにあってどうして加入すればいいのかに対する情報だけあってもサークルに関心がある留学生たちには大きく役立つと思います。

<奨励賞> 日本に来て分かったこと

人間社会システム科学研究科 研究生
チェン ピンチュン
CHEN PIN CHUN (台湾)



初めまして、陳品鎔と申します。人間社会システム科学研究科の研究生です。本日は「日本に来て分かったこと」をタイトルにして、自分自身の経験を四つ話したいと思います。

経験1. 昔から日本は高齢化社会だと知っていましたが、実際に暮らしてみたら、案の定中高年人口が多いのを感じました。でも、おじいちゃん、おばあちゃんと話す機会はほとんどなかったです。ある大雨の日、初めておばあちゃんに話しかけられました。でも方言に慣れていない私はおばあちゃんが何をしゃべったか分からなかったです。京都に遊びに行ったときも、宿先のおばあちゃんが京都弁を使っていたので、まったく理解できなかつたです。一生懸命日本語を勉強しましたが、まさか方言で完敗すると思わなかつたです。

経験2. 数字の表し方で面白いことがありました。台湾では、「六」と言えば、こんな感じですが、日本では電話の意味しかないみたいです。「六」を表したとき、日本人の友たちが分からないということをあのとき初めて知りました。難波でたこ焼きを買うとき、私が日本語で何かしゃべる前に、店員さんが直接中国語で対応してくれました。多分あのとき六個のたこ焼きを食べたかった私がつい手で「六」を表したからかもしれないと思っています。

経験3. 日本語で「気遣い」という言葉があります。それを初めて郵便局で実感しました。速達で手紙を送りたいとき、係員に「封筒の中身は何ですか」と聞かれた時、「キーホルダー」という単語が分からず、答えられませんでした。戸惑っていた私を見ると、係員さんは「危険物ではないですよ。手紙ですね。」と教えてくださいました。それは私が経験した日本人特有の気遣いでした。

経験4. 最後は、いままでで印象に残っているある一つの恥ずかしい経験があります。それは学校の近所の服屋さんに買い物をしてたときの話です。夏休みのある日に、晩ご飯の後、服屋さんに行きました。お店に入る時、レジが混んでいるように感じました。その時はあまり気にせず、ぶらぶら店を見て回りました。気がついたら、店員さんが掃除を始め、そして、店の中で客は私しかいない状況でした。急いで会計をしてもらった後、営業終了時間を聞いてみると、八時でもう過ぎていました。10時くらいまで営業しているお店が多い台湾で暮らしていた私にとっては、かなり衝撃でした。そのとき、育ってきた環境によって人の価値観は大きく異なるのだと認識しました。また、店員さんに何回も「すみません」と言って、とっても恥ずかしい思いをしました。それでも、そんな迷惑をかけた私に店員さんが笑顔を見せてくれました。この時は、店員さんの気遣いに救われましたが、恥ずかしい経験によって、先入観でものこ事を考えるのが良くないと分かりました。

以上が私が日本に来て分かった四つのことでした。

今日話したことは一見、関連性がないように思われますけど、それは実際に私の生活であったエピソードなんです。そういう経験があったからこそ、充実した留学生活を送っています。日本での生活はもう一年になりました。毎日の生活と勉強が充実しています。これからも、どんな経験が待っているのか楽しみにしています。ご清聴ありがとうございました。

大阪府立大学
第 23 回留学生日本語弁論大会
寄附者名簿

堺市内 9 ロータリークラブ

- 堺ロータリークラブ
- 堺南ロータリークラブ
- 堺東南ロータリークラブ
- 堺東ロータリークラブ
- 堺北ロータリークラブ
- 堺おおいずみロータリークラブ
- 堺泉ヶ丘ロータリークラブ
- 堺清陵ロータリークラブ
- 堺中ロータリークラブ

国際ソロプチミスト堺（団体および個人）

（順不同）

大阪府立大学
第 23 回留学生日本語弁論大会
報告書

大阪府立大学国際交流推進機構
大阪府立大学留学生後援会
〒599-8531 大阪府堺市中区学園町 1 番 1 号
大阪府立大学 国際・地域連携課
電話 072-254-9962 FAX 072-254-8145